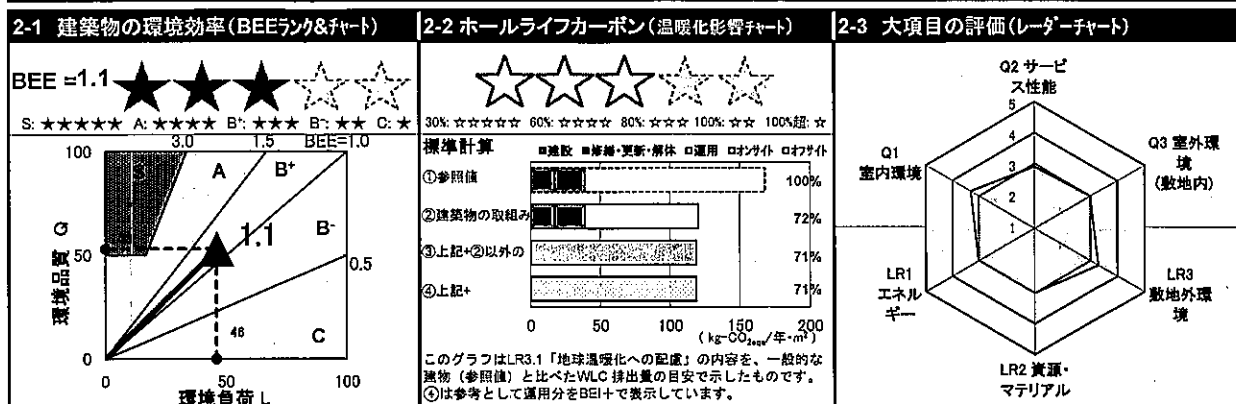


CASBEE®-建築(新築)

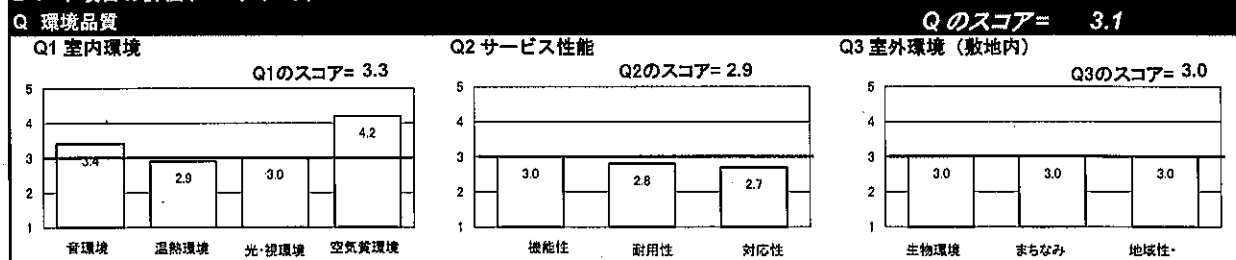
I 評価結果 I

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 I使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)京都府乙訓郡大山崎町計画	階数	地上4F
建設地	京都府乙訓郡大山崎町	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	120 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年9月 予定	評価の実施日	2026年7月21日
敷地面積	3,712 m ²	作成者	岡井
建築面積	853 m ²	確認日	2026年7月21日
延床面積	2,935 m ²	確認者	岡井

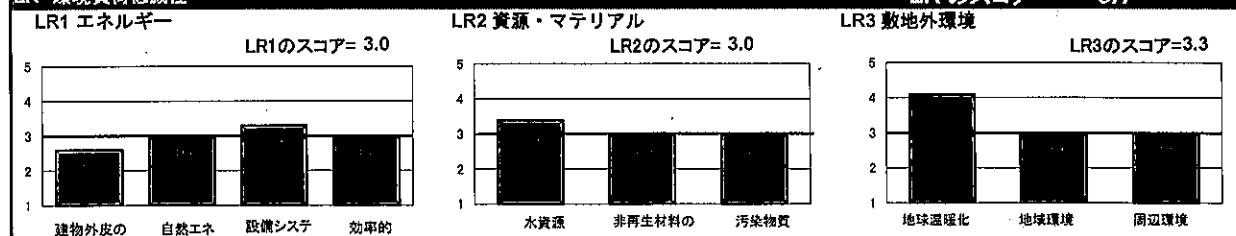


2-4 中項目の評価(バーチャート)



LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.1



3 設計上の配慮事項

総合		その他
宿泊者が安心して安全に利用できるように計画をした。 また、駐車場、植栽を設けることで建物利用者だけでなく周辺へ不快を与えないように配慮した。		0
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
室内にいる人が快適に過ごせるように、標準値に満たした性能とした。	長期的に建物を不便なく使用できるよう維持管理のしやすい仕上材や設備機器を採用した。	設備機器は極力屋上へ配置し、通行者の目に入りづらいようにすることで周辺環境に配慮した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
アルミ樹脂複合サッシを採用し、Low-eの複層ガラスを用い外皮性能の向上を図った。	環境に負荷を与えないよう建築資材を選定した。	駐車スペースを広くとり計画することで、路上駐車等の影響が出ないよう配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のことで、ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。

■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)京都府乙訓郡大山崎町計画	階数	地上4F
建設地	京都府乙訓郡大山崎町	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	120 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年9月 予定	評価の実施日	2026年7月21日
敷地面積	3,712 m ²	作成者	岡井
建築面積	853 m ²	確認日	2026年7月21日
延床面積	2,935 m ²	確認者	岡井

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ホールライフカーボン(温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価結果(レーダーチャート)
BEE = 1.1 ★★★★★ S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★ 環境効率 環境負荷 L	30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★ 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外の ④上記② このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたWLC排出量の目安で示したものです。 ④は参考として運用分をBEE10で表示しています。	3(保健) N/A 4(教育) N/A 5(エンター) N/A 6(水・衛生) N/A 7(エネルギー) N/A 8(経済・雇用) N/A 9(イノベーション) N/A 11(都市) N/A 12(生産・消費) N/A 13(気候変動) N/A 15(陸上資源) N/A 17(実施手段) N/A

* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.3 音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.9 機能性 耐用性 対応性	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 3.0 生物環境 まちなみ 地域性・
LR 環境負荷低減性		
LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.0 建物外皮の 自然エネ 設備システム効率化 効率的	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.0 水資源 非再生材料の 汚染物質	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.3 地球温暖化 地球環境 周辺環境

3 設計上の配慮事項		
総合		
宿泊者が安心して安全に利用できるような計画をした。 また、駐車場、植栽を設けることで建物利用者だけでなく周辺へ不快を与えないように配慮した。		
Q1 室内環境 室内にいる人が快適に過ごせるように、標準値に満たした性能とした。	Q2 サービス性能 長期的に建物を不変に使用できるよう維持管理のしやすい仕上材や設備機器を採用した。	Q3 室外環境(敷地内) 設備機器は耐力屋上へ配置し、通行者の目に入りづらいようにすることで周辺環境に配慮した。
LR1 エネルギー アルミ樹脂複合サッシを採用し、Low-eの複層ガラスを用い外皮性能の向上を図った。	LR2 資源・マテリアル 環境に負荷を与えないよう建築資材を選定した。	LR3 敷地外環境 駐車スペースを広くとり計画することで、路上駐車等の影響が出ないよう配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。

■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される